





太いヒノキの元玉に大きなキズ

によっても起こります。何年かたつて、一見キズがふさがつたように見えても、収穫して製材してみたら酷いポタン材であつた、となつてしまいます。講師をお願いした川島さんが、ご自分の現場のお隣、一見素晴らしいヒノキ林に案内してくれました。見ればこの林のヒノキは根元が傷だらけで、「これらの木は、ほとんど二束三文ですね」とのことです。恐らく20年以上前に間伐、集材したときのキズではないかとのことでした。見る人が見れば製材前でも立木の段階でも、中身は大方わかるよつです。

枝打ちはなにせ、「一にも二にも丁寧」で、木に傷をつけて材価を下げてしまつたら何のための枝打ちだったのか、という事になります。間伐も同じで、残す木に傷をつけたら間伐の意味ないですもんね。

金鳳寺のヒノキ林で枝打ちの実践をさせてもらいました。長老はじめほとんど

の方はワンタツチラダーで4m程度まで打ちました。小池さんは午前中に作つたふり縄で3段も4段も登つて8mほどの枝打ちを黙々とこなし、昨年

**木造材)**  
**枝打ち・安全衛生教育(伐**

通年コース13・14回  
10月14・15日(金・土)  
参加者/青木さん、阿部さん、雨宮さん、沖田さん、唐澤さん、小池さん、澤田さん、水津さん、田中さん、宮下さん  
スタッフ/川島、早川



試験中であう。明らかなひっかけ問題に気を付けて

ハットがあれ、その段階でメンテナンステナリ、修正したりして体調を維持し、競技を続けるのだと思ひます。無事これ名馬はソーンを

**「無事これ名馬」**

「無事これ名馬」は作家の菊池寛が1941年に競馬誌に寄せたコラムのタイトルです。馬主でもあつた彼は、自分の持ち馬が格別の成績を残さなくても、無事レースに出続けてくれればそちらの方が嬉しい、というようなことを書いています。しかしながら、お互いサラ・ブレットという選抜された競走馬の中で、レースに出続けるだけでも並大抵でないことは想像できます。プロスポーツの選手にしろ、オリンピックに出場するアスリートにしろ、けがや体調不良は付き物でしょうが、小さな不調や

持って山に入る我々にも当てはまるのではないのでしょうか。

仕事であれ、ボランティアであれ夕方方には必ず無事で山を下りてくる、これは我々が心すべきことです。さてそこで林業における災害発生状況を見てみましょう。1980年代には林業における死忘事故は年間1000件(人)を超えていました。高性能林業機械の導入や林道整備、あるいは防護服などの普及、さらには業界の安全意識の向上などもありここ20年ほどは年間30人〜40人程度で推移しています。

表1 産業別死傷年千人率の推移

年	林業	農業	鉱業	建設業	製造業	全産業
2011	36.3	4.8	7.2	4.1	2.8	2.1
2012	31.6	5.7	9.9	5.0	3.0	2.3
2013	28.7	5.4	12.0	5.0	2.8	2.3
2014	26.9	5.2	8.1	5.0	2.9	2.3
2015	27.0	5.2	7.0	4.6	11.2	2.1

※年千人率：千人当たり1年間に発生する死傷者数(休業4日以上) 厚労省「職場の安全サイト」

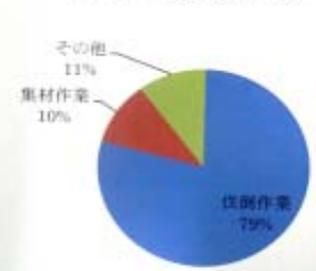
事業体の規模も小さく、また現場が山林であり、事故の検証も難しく、そして高齢化率も高いなど、乗り越えなくてはいけない壁がいくつもあつた。農業と似た状況です。農業においても農繁期には高齢者のトラクター横転による事故を毎日のように聞きます。林業もこの点は似ていて、最近の死亡事故の半分以上が60歳以上の高齢者で、50歳

以上に死傷年千人率(4日間以上の休業)で見てもみると、20年前には危険、きつい、汚いの3K職場代表のように言われていた建設業は当時10を超えていたのですが、ここ数年は5を下回る程度まで急速に改善しています。一方の林業は飛躍的向上を見せた90年代以降は改善が進まず、平成に入ってから30前後という、高止まり状態です。ヘルメットや安全靴などの装備を徹底し、業務に必要な資格、研修了証等提示しないと下請も合せて現場に立ち入らせないなど、業界一丸となつて水平展開を行い徹底した安全管理を行つてきている建設業界に比べ、林業界はまだそのあたりが甘いのかもしれません。

林業労働災害速報一覧という統計を発表しています。それによりますと、今年度9月14日現在で、林業ですでに20人の方が亡くなつてしまつた。相変わらず伐倒作業で伐倒木による死亡事故がかなりの割合を占めているのですが、重機で転落したり挟まれたりという事故も目立っています。昨年2015年の速報一覧から、亡くなつた38人の方の作業別災害をグラフにしてみました。それによりすると、8割近い3

以上も含めると8割を超えます。年を取つてくると身体能力は徐々に低下する一方、経験値はあがります。しかしこのことが自信過剰に繋がり、勘や経験に頼りすぎた、安全を軽視した手抜き作業になりがちです。さらに新しいことを取り入れる柔軟さがなくなるので、年下の人の忠告も聞かなくなる、という弊害があります。元上伊那森林組合の副参事で、現在は特殊伐採の会社代表を務める吉見次郎さんはこの事を「経験に頼ることは、見る目を曇らせ、聞く耳に蓋をすることに成る」と林業雑誌で戒めています。さて、森林塾でも使っている労働安全衛生教育のテキストを発行している林業・木材製造業労働災害防止協会(林炎防)というところが

林業における死亡災害発生状況  
2015  
(林災防・林業労働災害速報一覧)



0人の方が伐木作業で亡くなられています。集材作業では重機とともに転落したり、挟まれたりなどです。その他の中にも重機をトラックから降ろす時の事故、運搬時の事故もあり重機の事故は侮れません。

ほとんどを占める伐倒作業の中には、枯れ枝や折れた枝の落下による災害も多くみられ、かかり木処理作業時と同じく枝の落下は要注意です。

また関係者にとって非常に悲しく、後々まで悔やむことになる災害は、伐倒作業中に同僚の倒した木などで命を落とす事故です。平成27年12月7日付け基発1207第3号で、立入禁止区域が樹高の2倍に改正されています。コミュニケーションを良く取り、くれぐれも同僚を事故に巻き込まないよう、慎重に作業したいものです。講

師の川島さんが常々言われていること、『まさかあいつは、こんなことをしないだろう。』彼ならさつさと退避しているはずだ。』などと勝手に思いこんだり、妙に信用したりしないようにしてくださいね。心しておきましょう。

**次回以降の予定**  
**集中コース(秋)**  
**11月11日、13日(金、日)**

森林の現況調査(測樹)から施業診断をおこない、間伐が必要かどうか判断します。必要であればその現場で実際にチェーンソーを使って間伐をしてみましよう。また、時間があればウィンチを使った集材も経験します。KOA森林塾のエキスを集めた、結構忙しい3日間です。現在申し込みがわずかです。少人数で中身の濃い実践が出来ると思います。参加検討中の方、是非おいでください。

申し込み締め切りは11月1日(火)。電卓、筆記用具をお忘れなく。8時20分KOA森林塾鳩吹集会所集合。

**専門コース第4回開催**  
**11月25・26日(金・土)**  
今年度最終回です。今年1年の総まとめ、ご自分の直すべきところ、悪い癖を是正し、安全第一の作業が出来る

かどうか復習してみましよう。今まで使わなかった道具などもできれば一度使ってみてください。現場は前回と同じく伊那市横山の寺有林の予定です。

8時20分鳩吹集会所集合。

**通年コース第15・16回**  
**12月2・3日(金・土)**  
**炭焼き・山林見学**

駒ヶ根の現場で間伐したヒノキを炭にしてみましよう。炭焼きは通常は4、5日かかるのですが、ステンレスの移動式炭化炉を使い、インスタントの炭を作ってみます。針葉樹で作ると柔らかく火持ちが良くない代わりに火付が早く、燃しやすいという、BBQなどにはぴったりな炭になります。完成品持ち帰りできます。乞うご期待。炭化炉に点火した後は火の番をしながら忘年会をしましよう。おそらく窯止めが夜中になるので、できればお付き合いください。集会所には寝具等あり、宿泊できます。予定では窯止めが深夜で、朝に窯出します。

炭を出し、量を計測した後、保科先生のカラマツ林の見学予定です。急峻なところですので暖かく、山歩きできる格好です。

軍手やマスク、タオルなどお忘れなく。差し入れ歓迎、得意料理、得意な歌、演奏ご披露ください。

リレー通信



『手さぐり』  
宮下 なお

私の人生を変える出来事のきっかけになったのは今年の1月。群馬県に遊びに行った時にたまたま手にした地方新聞の記事でした。記事にはこう書かれていました。『ぐんま林業学校受講生募集』思わず私に転機が訪れたのかと思いました。今現在はごくありふれた接客業をしています。何となく自分らしく生きていないような気がしていました。そんな時にこの記事が目にとまりました。

普段山に囲まれた環境で生活していること、時にはトレーニングをしたり、そんなことにも影響されているのだと思います。すごく林業に興味がありました。ただ、普段の生活の中でできっかけが見つからなかったただけなのかもしれません。

私は早々にこの記事に書かれた連絡先へ問い合わせしてみました。女性でも受講できるかどうか心配だったが、らです。答えは大丈夫ですとのことでした。あとは募集定

員がオーバーした場合は選考となることでした。私はダメもとで応募することになりました。待つこと約1か月、封書が手元に届きました。私はドキドキしながら開封しました。そこには『受講決定通知書』がありました。やっぱり私の転機なんじゃないのかなと心から思いました。新しいことにチャレンジする良いきっかけになり、これはやるしかない、そう思いました。

同封されていた案内には5日間の事業体での研修が組み込まれていました。林業は体力勝負と聞かされていましたが、自分の体力を試すいいチャンスでもありましたし、また畑違いの仕事から、林業という仕事ができるのかどうかを見極める、良い機会でもありました。

林業と一言で言ってしまうのですが、作業内容の範囲だけでも驚かされました。地ごしらえ、植え付け、下刈り、除伐、枝打ち、間伐、伐採、集材、搬出などといった色々な作業があること。聞いているだけでも体力が消耗しそうです。

講習では林業の基本的な知識や安全についての講義、刈払機やチェーンソーの講習、その後山林に出て実地講習がありました。刈払機は以前使用したことがあるので何

となく理解しましたがチェーンソーに関しては「初めまして」という状態でした。私はこれを使いこなせるのだろうかと不安でした。

いざ実践、伐倒方向を決めドキドキしながらチェーンソーのエンジンをスタート。講習で教わった伐り方をイメージして受け口を作ってみる。おっかなびっくりチェーンソーの刃を木に当てたせいか、倒す方向へ受け口が向いていなかった。修正をして大体の方向へ向いたものの、初めてなので加減がよくわからず、そのまま追い口を入れてしまいました。結果、きれいにかかり木。私の初めての伐倒はかかり木に終わりました。その後のかかり木の処理は大変でした。かかり木をすると余計な労力と危険が増すことを身をもって体験しました。安全に効率良く作業するには伐倒方向をしっかり見極め正確に倒すこと、その重要さを学びました。

事業体での研修でも貴重な体験をさせてもらいました。植樹した苗を害獣から守るための農薬散布や、間伐した場所の測量。どちらも急斜面で地面が凍結していて足を取られ、かなり大変でしたが苦にはなりません。むしる作業すること全てが新鮮で、とても楽しかったです。

す。研修中、私自身伐倒はしませんでしたが、立ち会わせてもらえる機会がありました。伐倒できるスペースが限られている場所での作業で、胸高直径60センチ、樹高25メートル位の杉5本でした。受け口を作り、伐倒方向を確認したかと思えば、迷わず追いつくを入れて行き、クサビで目指す方向へドスンと地響きを上げてきれいに倒れていく。手際よく枝払いをして玉切りしていく。そんな姿に感動しました。この時私もやっぱり林業をやりたいと、強く思わされた瞬間でした。ほどなく研修も無事に終わり、いざ働けるところを林業アドバイザーの方に相談しながら探してみましたが、私はすぐに働ける場所が見つかると思っていました。ところが甘かった。経験者もしくは

男性なら...といった返事ばかりで玉砕してしまいました。林業はまだまだ男社会、女性には狭き門でした。「こうなつたら経験を積むしかない。」自分のやる気を奮い立たせるため、チェンソー、鉋、斧、クサビ、ヘルメット、防護服。道具を揃え、まずは経験を積んで腕を磨くこと。そのためにはまずは山に携わっているボランティア活動へ参加してみることにしました。ここでは里山づくりの活動を主にやっています。間伐、除伐、林道整備、棚田、畑、薪づくりなどといった事をしています。ボランティアへ参加するようになり、林業に携わる人たちと色々話をすることによって、情報や自分に足りない知識を得る良い場所にもなっています。

そんな会話の中で、林業初めてなら伊那に『KOA森林塾』というのがあるよと教えていた。だいたいのことがきくので、すぐに調べてみました。塾では、チェンソーの専門コース、集中コースと通年コースというのがありました。単発参加もOKということだったので、まずは間伐、集材作業へ参加してみることにしました。参加して正解、私のチェンソーの使い方の悪いところを丁寧に教えていただきました。また、他の人のやり方を見るのも自分にとって良い勉強になりました。ボランティアとは違った勉強の場でした。何よりもこの塾の和気藹々とした雰囲気ですごく気に入りました。ここでもっと林業の事を学びたいと思い、私は引き続きKOA森林塾へ通っています。

まだまだ知らない事だらけの林業、今はまだスタート地点に立つたばかりなので、少しずつでも前進できたらと模索している今日この頃です。



10月初旬小屋裏のナメコのホダ場

に力を蓄えて時期を待っていたようです。他の皆さんは2万5000分の1の地図で探す。マツタケの出る山の近くに、南向き、南西、南東向きの尾根はないかを地図で探します。候補地が見つかったら実際に現地に行ってみます。そこそこ傾斜があり、尾根筋にはアカマツに広葉樹が混じる。花崗岩と、その風化した地質に、ネジキやソヨゴ、ツツジやススキなど。手で笹や灌木をかき分けて歩け、木漏れ日が差す。こんな所なら合格点。シーズンの終わりにこころに探しに行く。シロガわからずにはハイシーズンにマツタケ採りに行っても、初心者にはさっぱり見つけられません。シーズン終盤で、熟練者が達が途絶えたところに、行ってみます。伊那界隈でしたら10月中旬くらいかな。開いたマツタケならだれでも見つけられるので、もし出れば独り占めです。あったらあわてて採らずに、a、一度そこから離れて周りの景色をしっかりと頭に叩き込み、b、他に出ていないか周囲をしつかり確認したのち、やおらゲットし



ていた。だいたいのことがきくので、すぐに調べてみました。塾では、チェンソーの専門

コース、集中コースと通年コースというのがありました。単発参加もOKということだったので、まずは間伐、集材作業へ参加してみることにしました。参加して正解、私のチェンソーの使い方の悪いところを丁寧に教えていただきました。また、他の人のやり方を見るのも自分にとって良い勉強になりました。ボランティアとは違った勉強の場でした。何よりもこの塾の和気藹々とした雰囲気ですごく気に入りました。ここでもっと林業の事を学びたいと思い、私は引き続きKOA森林塾へ通っています。

まだまだ知らない事だらけの林業、今はまだスタート地点に立つたばかりなので、少しずつでも前進できたらと模索している今日この頃です。

に力を蓄えて時期を待っていたようです。他の皆さんは2万5000分の1の地図で探す。マツタケの出る山の近くに、南向き、南西、南東向きの尾根はないかを地図で探します。候補地が見つかったら実際に現地に行ってみます。そこそこ傾斜があり、尾根筋にはアカマツに広葉樹が混じる。花崗岩と、その風化した地質に、ネジキやソヨゴ、ツツジやススキなど。手で笹や灌木をかき分けて歩け、木漏れ日が差す。こんな所なら合格点。シーズンの終わりにこころに探しに行く。シロガわからずにはハイシーズンにマツタケ採りに行っても、初心者にはさっぱり見つけられません。シーズン終盤で、熟練者が達が途絶えたところに、行ってみます。伊那界隈でしたら10月中旬くらいかな。開いたマツタケならだれでも見つけられるので、もし出れば独り占めです。あったらあわてて採らずに、a、一度そこから離れて周りの景色をしっかりと頭に叩き込み、b、他に出ていないか周囲をしつかり確認したのち、やおらゲットし

投稿大歓迎。ご意見ご質問は事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp



子供のマツタケにマウスの糞

では成功を祈る。

PSのアプリがあれば記録すること。テープなどの目印は他の人も見つけやすいのでやめた方が無難かもしれません。きのこ採りで遭難のニュースを今年もよく耳にします。足回りはしっかり固めて急峻なところは三点確保で。家族にはあらかじめ行く場所を話し、携帯は必ず持って行くこと。拳骨大の糞があつたらそれはツキノワグマ。プナやドングリの実が落ちて、彼らがあが荒食いする時期です。クマ除け鈴かラジオ、できれば唐辛子スプレー(高いんですよ)も忘れずに。



手のひら大、周りは真っ白